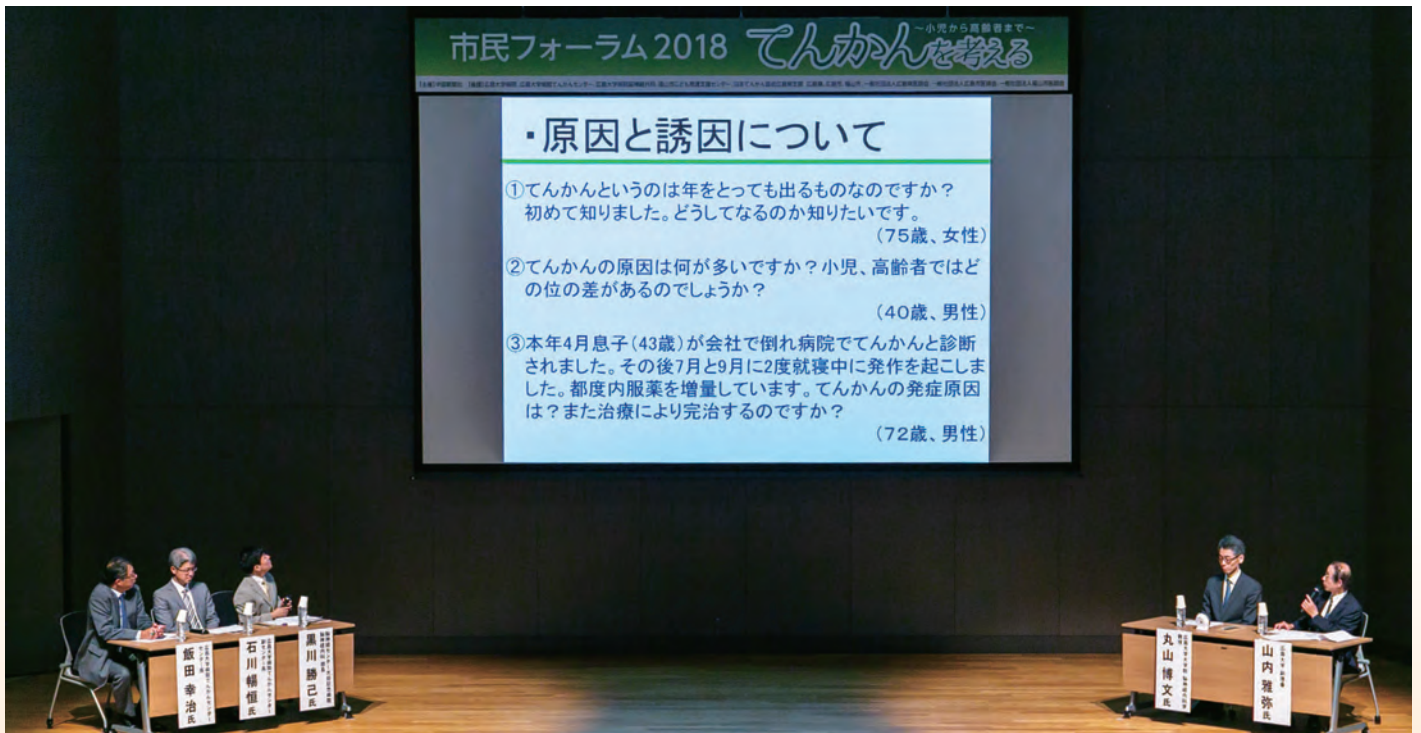


6年目迎えた「てんかんセンター」 広島県モデル さらに発展へ



啓発活動として開いている市民フォーラム「てんかんを考える」(昨年10月28日、広島市東区)

JICA支援事業や全国大会の開催も



ナパールで現地医師らに脳波データの見方を指導する香川幸太助教(左端)



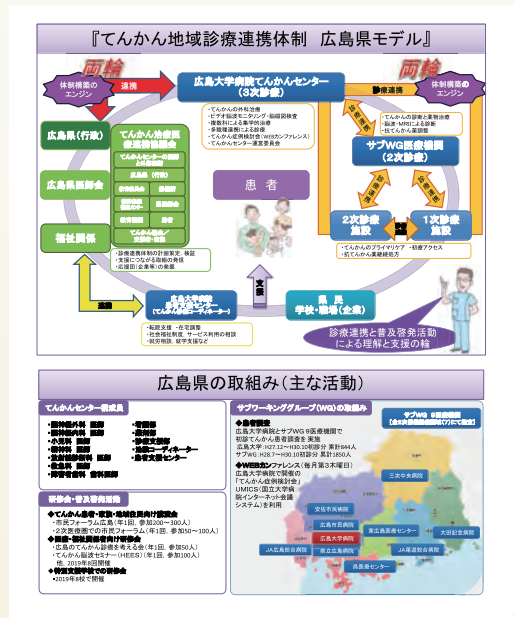
100人を超える医師や検査技師が集まる「広島てんかん脳波セミナー」

てんかんセンター核に診療連携体制 広島県・2次医療機関が両輪

広島大学病院に、てんかんセンターが開設されて6年、広島県行政や2次保健医療圏ごとの9病院との取り組みは5年目を迎え、広島県モデルとして定着してきました。患者や家族にとっても頼れるセンターとして啓発活動などにも積極的にかかわっています。JICA事業での海外への支援活動や全国大会の開催、連携体制の拡大など新たな挑戦も進めています。これまでの歩みと新たな動きを飯田幸治センター長にまとめてもらいました。

広島大学病院てんかんセンターは2014年1月1日に開設され、組織横断的なてんかん診療活動を通じて、地域におけるてんかん診療ネットワークの3次診療施設の役割を果たしてきました。

てんかんは、2018年に第7次医療計画の重点疾患に組み入れられました。それに先立つ2015年には厚生労働省が「てんかん地域診療連携体制整備事業」を立ち上げ、広島大学病院は診療拠点機関として広島県から指定を受けました。拠点機関に課せられた役割には、連携体制整備のほか、てんかん診療への助言や指導、地域におけるてんかんに関する普及啓発、があります。これまで当センターが行ってきた活動を継続しつつ、新たな体制構築にも取り組んでいます。広島県内の2次保健医療圏ごとに計9病院の2次診療施設からなるサブワーキンググループ(WG)を設置し、地域診療連携の実践的活動や従来行ってきた院内症例検討会に合わせて、WEBカンファレンスを実施しています。また、取り組みを進めていくための連携体制として「広島県モデル」を作りました。このモデルの特徴は、広島県(行政)と医療機関(特に2次サブWG医療機関)を体制構築のエンジンとしている点で、患者さんを中心にこの両輪で多職種連携を回し、かかりつけ医など1次診療機関へも連携を拡大することで体制をより強固にしていく予定です。患者さんにとっては病状に応じて紹介などがスムーズに進むメリットもあります。



啓発へ市民フォーラムやセミナー

当センターが行ってきた活動は多岐にわたります。国内でのてんかん教育・啓発活動として、広島てんかん脳波セミナー(HEES)は、主に中国四国エリアのてんかん治療医およびてんかん非専門医を対象に2012年から開催してきました。昨今では、ヒース(HEES)という呼び名で全国に広がり、毎年100名を超える医師や検査技師の参加を得るまでになっています。一般市民に対する疾患啓発には最も力を注いできました。開催地を広島市内から地域へも広げた市民フォーラム「てんかんを考える」は、今年で10周年を迎えます。海外での活動には、アジア地域(ネパール、インドネシア、中国、インドなど)での医師を対象としたてんかん学教育と手術支援があります。一方、院内では、医師や看護師・臨床検査技師・リハビリテーションなど多

職種メンバーによるてんかん症例検討会を月1回行ってきました。8月には今年センターを開設した筑波大学附属病院から「先行例を参考にしたい」と医師や看護師らが視察に訪れました。

臨床面では、術前評価に必須なビデオ脳波モニタリング(てんかん焦点や病態把握のための特殊検査)を年間約110件、難治性てんかんに対する手術は、いわゆる側頭葉切除術のほか、難易度の高い小児てんかん手術(半球切除・離断術など)を含め、年間40-50件施行しています。いずれも中四国地方では最多で、同地方におけるハブ的存在(高次てんかん外科施設)となっています。



視察に訪れた筑波大学附属病院の医師や看護師ら

JICA事業でネパールを支援

てんかんセンターが実施主体となるネパール支援事業「カトマンズと周辺地域におけるてんかん診断能力向上および地域連携強化事業」が2018年度の国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業(協力支援型)に採択されました。従来行ってきた海外でのてんかん学教育と手術支援を、より公的な活動として発展させていきます。



記者会見でネパール支援事業のJICA採択を説明する飯田センター長と木内病院長

てんかんを専門に診療できる医師はネパール全体で6、7名のみ(ちなみに広島県内の日本てんかん学会専門医は14名)で、その過半数が首都カトマンズに集中しています。そのため、多くの患者を専門外の一般診療医が診療しています。さらに、周辺地域の中核病院にはてんかん専門医がおらず、手術が可能なセンター的な病院もありません。この事業では、カトマンズと周辺地域の医療従事者の教育・養成を進めることを目的に、てんかんセンターの医師、技師、看護師らが現地を訪れ診療の助言、指導を行うほか、ネパールの医師らを広島大学病院に招き、具体的な研修も行う予定です。現地では、てん

かんの無料診断キャンプを行いながら、診断技術の向上と市民の支援を行っていきます。実施時期は2020年1月から2年間の予定です。

全国てんかんセンター協議会総会 来年2月に広島で開催

2020年2月8日(土)9日(日)、広島市の県医師会館などで第7回全国てんかんセンター協議会総会(JEPICA)2020を開催することとなりました。本協議会は、国立病院てんかん外科ネットワークを母体として、2013年2月に新たな運営方針を定め発足したもので、全国のてんかんセンターが集い、問題点を共有し、診療およびてんかんケアの質を改善していくことを目的としています。全国的に見てもとてもユニークな組織で、医師中心の学会とは異なり、てんかん医療に携わる看護師、検査技師、コーディネーターら多職種の方々のてんかん診療への参加を促しています。

今回、年に一度、関係者が一堂に会して議論する場を広島で提供させていただく機会を得ました。当センターが目指している連携体制確立に向けて、「Interprofessional education: IPE(多職種連携教育)」の場にふさわしい総会になるよう準備を進めています。多くの皆様の参加をお待ちしております。



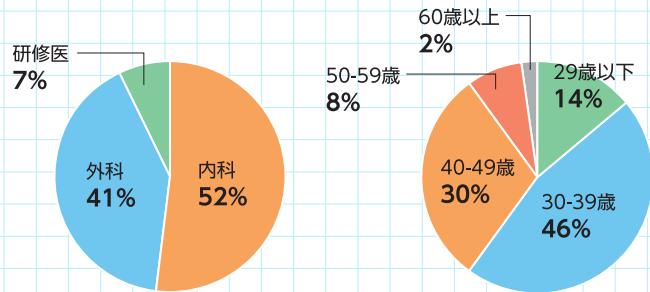
(文責:広島大学病院てんかんセンター長 飯田幸治)

働き方改革 男性医師にアンケート

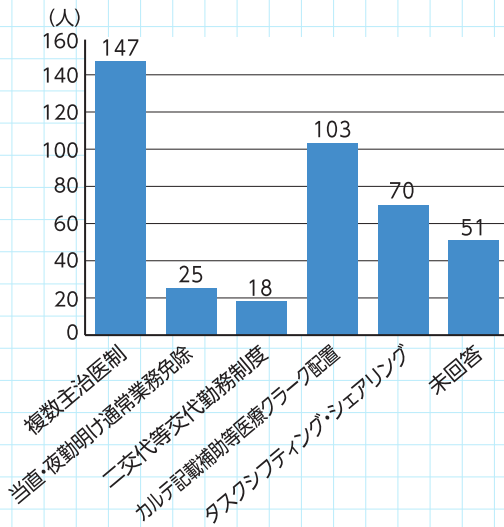
2019年4月から働き方改革が本格的に始動しています。

女性の躍進を推進する現在の社会においては、病院も例外ではありません。女性医師への支援はもちろんですが、今後は男女を問わず医師の働き方改革が必要と考えられます。そこで広島大学病院では、女性医師支援センターが男性医師を対象に働き方に関する意識調査を行い、266人から回答を得ました。結果の一部をご紹介します。

Q アンケートに回答した 医師の内訳と年齢構成

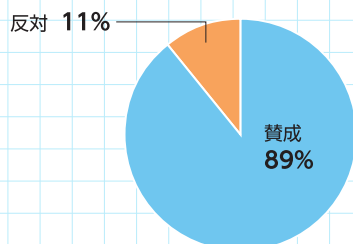


Q 現在の職場に、医師の職務負担軽減のため、 導入されているもの(複数回答可)



複数主治医制を筆頭に、カルテ記載の補助などのため医療クラーク(事務)の人を配置したり、業務移管や共同化(タスクシフティング・シェアリング)など、さまざまな取り組みがされています。

Q 複数主治医制の導入について 賛成ですか、反対ですか。



複数主治医制は、チームで医療体制を整え、一人の患者さんを診る方法です。主治医一人が担当の患者さんの診断・治療方針に責任をもつこれまでの診療体制に対し、複数の医師がチームを作って情報を共有し今後の診療・治療方針を相互検証します。

医師にとっては、休みが取りやすくなり身体的・精神的負担軽減につながり、働き方改革に必須といわれています。患者さんにとっても診断や治療の精度があがるというメリットがあります。

さまざまなメリットから、すでに複数主治医制をとっている診療科もあります。アンケートでは賛成の医師が多いこともあり、今後導入する診療科も増えていく方向性にあります。

今後は女性医師へのアンケートも実施、医師の働き方改革によって、患者さんにもより良い医療が提供できるように、進めていきたいと考えています。

栄養管理部
情報

きのこ について



担当した管理栄養士

秋は食欲の秋と言われており、旬のおいしい食べ物がたくさんあります。冬に向けて栄養を蓄えるためにこの時期にしか食べられない栄養たっぷりの旬の食べ物をたくさん食べましょう。今回は、旬の食材であるきのこ類のうち4種類について紹介します。

ぶなしめじ

カルシウムの吸収を助けるビタミンDや代謝をアップさせるのに役立つビタミンB1、B2などを含む。また、不足しがちな必須アミノ酸*が多く含まれている。

*必須アミノ酸…ヒトの体内で作ることのできないアミノ酸

えのきたけ

血圧上昇抑制効果のあるGABAがたくさん含まれている。ビタミンB1をキノコ類の中でも特に多く含んでいるため疲労回復作用がある。

しいたけ

ビタミンDのもとになる物質を多く含んでおり、骨や筋肉を丈夫にしてくれる。

また、しいたけは紫外線を浴びると、ビタミンDが増えるため干しいたけを料理に用いるとよい!

まいたけ

免疫機能を回復させ、ガン細胞の増殖を抑制する働きを持つ物質が多く含まれているためがんの予防にも役立つ。

キノコ類の中でも特にビタミンDが豊富に含まれている。

キノコを使ったおすすめレシピ

～まいたけとアスパラガスのソテー～



栄養価 エネルギー量:100kcal、たんぱく質:5.0g、塩分:0.5g

材料(1人分)

- アスパラガス…… 60g
- まいたけ …… 40g
- ベーコン …… 20g
- 塩コショウ …… 少々
- 油 …… 小さじ1

作り方

- ①アスパラガスはボイルし、食べやすい長さに切る。
- ②まいたけ・ベーコンは一口大に切る。
- ③フライパンに油をひき、まいたけ・ベーコンを炒める。
- ④アスパラガスを加え、軽く炒めたら塩コショウを加えて、味を調える。





病院で働く人に ズームイン!

FILE 06 SICU看護師

かわのまなみ
河野真奈美 (25歳)



看護師を目指したのは

小学生のころに目の前で交通事故が起きたんですが、何もできずに悔しい思いをしました。もちろん、子どもなので当然なのですが。その時に何か人のためになる仕事をとっていました。「コード・ブルー」とか医療系のドラマが好きなのもあり、進路を決める時に看護師をめざし、大学に入りました。卒業後、広島大学病院に就職して4年目です。3交代制の夜勤にも慣れてきました。

今後の抱負は

自分がどういう方向に進めばいいのかわからないので、それを見つけたいです。先輩看護師の中には、一つの専門分野を目指して習熟したり、いろんな分野を回りながら視野を広げていったり、看護についての研究を深めたり、とさまざまな方がいらっしゃいます。自分はまだまだ未熟なので、何が向いているのかを含め進むべき道を見極めていきたいと思っています。

SICUとはどんなところですか

手術後の重症の患者さんをみる、集中治療室です。学生のころに実習で術後の患者さんがリハビリや治療を頑張ってくれていく姿を見てやりがいを感じました。そのお手伝いがしたいと思いSICUを希望しました。



気を付けていることは

術後は呼吸や循環系などが安定しておらず、状態が揺れる患者さんもいます。何が起きていて、どういう状態なのか、少しの変化も見逃さないというつもりで看護しています。急変があると、すぐに対応できるのか気を使います。医師の指示で治療するのですが、素早く対応できるかどうかでその後の回復具合にもかかわってきます。そのためにも経験を積んでいきたいです。



催しのご案内 (2019年10月~12月)

がん治療を支える 患者サロン

保険適用になった!がんゲノムについて

10月17日(木) 13:30~14:30 会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室
講師: 遺伝子診療部 医師 檜井孝夫

がんと栄養について

11月18日(月) 15:00~16:00 会場: 臨床管理棟3階 大会議室
講師: 公立みつぎ総合病院顧問(代表) 医師 平井敏弘

消化器がん(胃がん・大腸がん)の薬物療法

12月19日(木) 13:30~14:30 会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室
講師: がん化学療法科 医師 山内理海

患者・家族が同じ目線で

がん患者 おしゃべり会

10月23日(水) 13:30~14:30

11月26日(火) 13:30~14:30

12月24日(火) 13:30~14:30

場所: 診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは:
がん相談支援センター ☎082-257-1525